

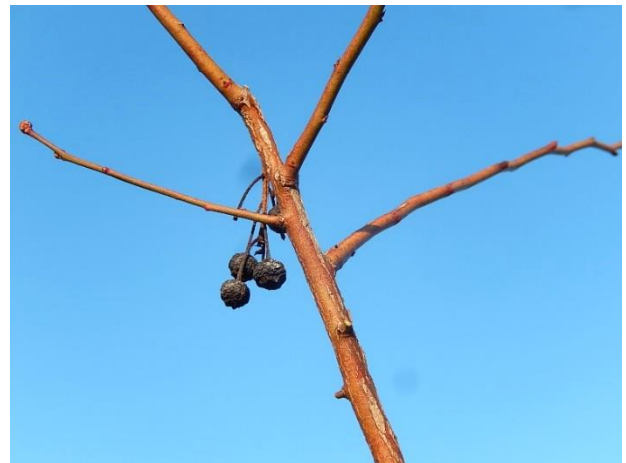
2025 年 2 月のブルーベリー農園その 2

人も植物も動きが少ないので農作業の合間に撮影する写真もアップが多くなった。東広島市豊栄町のブルーベリー農園に安芸区の自宅から通う農作業も寒さが次第に緩んでくるのがうれしい。ブルーベリーを植えてから 25 年目に入ってきて、必要な枝の更新も去年と今冬でほぼ終了したので短い枝や込み合った枝の剪定がこれからの中心となる。枝の更新で昨年夏の収穫量が落ちて安芸の郷への納品も少なくなってしまったので実がなりそうな枝をできるだけ残すようにしている。

2 月 9 日（日） 3 段あるブルーベリー畑の一番上でブルーベリーの剪定を行う。地べたは雪で靴の中にカイロを入れて鉄を動かす



2 月 11 日（火） ポツンと残るブルーベリーの実



2 月 10 日（月） ブルーベリーの枝に作られたカマキリの巣。春に孵化して害虫を食べてくれる



2 月 12 日（水） 一日中小雨で倉庫の片付けと農園の見回りを行う。

① 里山のブルーベリー園は日が当たらないのでまだ雪が残っている



ブルーベリーの太い枝を切ったので癒合剤を塗った



- ② 日差しが強くなってきているのでブルーベリーの枝のしずくもキラキラ明るい



- ③ 畑の早生のブルーベリーの花芽。順調に膨らんでいる

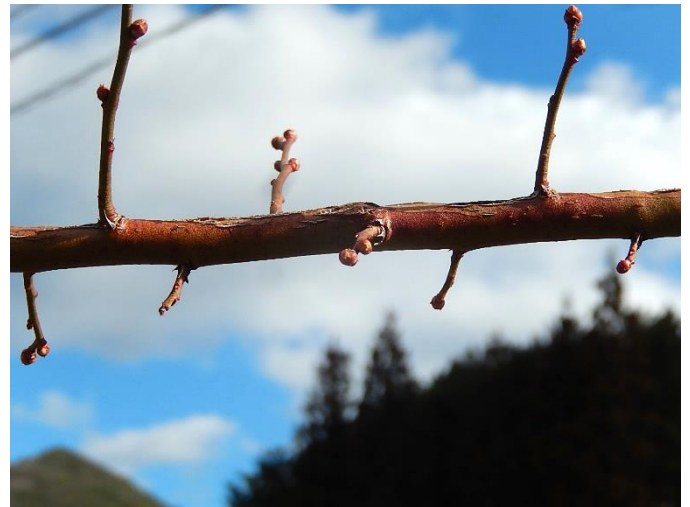


2月13日(木) 野焼きする場所も雪が消えたのでブルーベリーの枝を燃やす



ブルーベリーの剪定では写真のようなマッチやつまようじの長さ以下の短い枝をコツコツと切っていく作業が続く

《2025年2月15日の「新・ヒロシマの心を世界に」のブログに掲載したものに写真を加えて編集しなおしています》



一番上のブルーベリー畑の剪定が9割がた終わる。すっきりした枝が広がる



夕方5時過ぎでも空は明るい季節に入った。この日は風もなく気温も6度くらいまで上がっていた



2025 年 2 月 15 日
社会福祉法人安芸の郷
理事長 遊川和良